報告 広島県支部　支部交流会（Web）を開催

「つながっている。」顔の見える交流・情報交換

三原一訓 支部長

平儀野真紀 広島県支部総務委員長

大江和人 広島県支部企画委員長

当協会広島県支部（三原一訓支部長）では、支部会員（103 人）を対象に 11 月 18 日（金）、平儀野真紀広島県支部総務委員長、大江和人広島県支部企画委員長が企画進行役となり、Web 会議システムを利用した「支部交流会」を昨年に続き開催した。

当日は新入会員 3 人を含め 16 人が出席した。

同支部はコロナ禍が続き支部会員同士が交流する場が失われているとの危機感から、昨年 9 月に初めて Web 会議システムを利用した「支部交流会」を開催した。出席者の多くが顔の見える交流の場の大切さを再認識し好評であったため、今年の開催へとつながった。

支部会員の交流・つながりの大切さ

定刻前にほとんどの出席者が Web にログインしてきた。雑談のない Web 特有の緊張感が漂うも、司会進行役の平儀野総務委員長の和やかな雰囲気づくりでリラックスムードに変わった。

三原支部長は挨拶に続き、新入会員に向けて「広島県支部の紹介」を行い支部会員 103 人は全国支部中 6 番目の規模であり、多職種で得意分野も様々な会員が在籍していること、コロナ禍の前は広島県支部独自の「継続研修」「施設見学」「医業経営セミナー」「定時総会」など、会員交流の機会が多くあったことが紹介された。

第 1 部　18：30 ～ 18：35「広島県支部の紹介」
第 2 部　18：35 ～ 18：45「新入会員の紹介」
第 3 部　18：45 ～ 19：50「グループディスカッション / 顔の見える交流・情報交換」
テーマ：自己紹介、支部活動への要望、定額制個人研修おすすめ講演、お仕事の情報交換
・グループ報告
・おわりに

新入会員の自己紹介の後、3 つのグループに分かれファシリテーターのリードで支部活動への要望、定額制個人研修おすすめ講演、仕事の情報交換などをテーマに意見交換が行われた。

その後、グループごとに報告が行われた。

支部活動への要望では、リアルに会員同士が会える機会を増やしてほしいとの意見が圧倒的に多かった。定額制個人研修おすすめ講演では「助成金」「在宅医療」などは繰り返し視聴しているとの報告もあった。仕事の情報交換ではクライアントから専門外の相談を受けたとき相談できる会員がほしい、事業継承や医療機関の広告宣伝戦略について興味深い話が聞けた、など実り多い時間を共有できたようだ。

おわりの挨拶で大江企画委員長は、当協会は多職種の会員が集まっていることが強みなので、このような機会を 1 回でも多くつくりたいと結んだ。

昨年に続き、支部会員同士が交流する場の大切さをあらためて感じる交流会となった。

（当協会本部広報委員 / 広島県支部副支部長
藤井 康彦）